

令和 2 年 08 月 03 日

< ワンポイント・レッスン (実践) >
(セリング・クライマックス)

間違えると大怪我なのでお勧めできませんが、暴落相場の中でセリング・クライマックスの銘柄がマーケットの何%を占めるか計算、ダイナミックに逆張りを行う手法があります。大幅な下落の最終局面では、多くの投資家が先行き不安の中、持ち株を株価水準に関わらず投げ売る経験則が知られています。間違えるのはそのあと。再度のセリング・クライマックスが生じることがあるからです。現象としては、①. 主力株が投げ売りの局面となっている。②. 最近の高値から大幅な下落となっている。③. 直近日において▲5%を超えるような下落となっている。④. 直近日において下ヒゲの長い動きになっている。そして、更に重要なことは、⑤.直近日において出来高が急増していること、これらが条件です。

実践としては、銘柄スクリーニングになります。が、後日、株価指数で全体底入れ確認のために使うことが多いと思います。直近では、今年 3 月 16 日の出来高急増を伴った下落が底となるか否か注目されました。

(TOPIX・週足)



All Copyright © ゴールデン・チャート社